

教育ながの

ー長野県教育委員会メールマガジンー

第 608 号
平成 25 年 7 月 19 日



しあわせ信州

1. ひろば

マネジメントについて

長野県教育委員会教育次長 笠原千俊

2. 特集

なぜ、今「地域と共にある学校づくり」か

文化財・生涯学習課

3. 今、学校では

「わくわくずこっすデー」（全校造形の日）

〜つむぎ合う子どもたち〜

茅野市立永明小学校

4. 現場レポート

小諸高等学校を訪ねて 〜初任者研修 研究授業〜

教育総務課

5. イベント情報・お知らせ

6. あそびがき

深

刻化し複雑化している教育の諸課題に

対応するために、また、価値観が多様化するなかで学校が本来の機能を発揮するために、校長はマネジメント力を高めることが不可欠です。

…このごろ、そんな言い方でマネジメントという語が多く使われています。

…このごろ、そんな言い方でマネジメントという語が多く使われています。



そ

んなふうと言われると、なるほどまっ

たくその通りだと思いい、「リスクマネジメント」とか「学校組織マネジメント」といった言葉

葉を聞くと、マネジメント力は校長・教頭等が新たに身につけるべき必須の能力のように感じられます。確かに、危機管理的な働きを高めたり職員

組織の機能化を図ったりする力は、今日的な諸課題に対応するために校長・教頭等が日々更新して

いくべき能力ですが、マネジメントということばの響きに惹かれて、不易な部分を持つ肝心なことを忘れないようにしなくてはと思っています。

そもそも、マネジメントとは、どういうことでしょうか。昔習ったことを思い出せば、経営とか管理ということとされます。とすると、「学校マネジメント」と使った場合は「学校経営」と同義と考えてよさそうだと感じられます。

経営とか管理ということとされます。とすると、「学校マネジメント」と使った場合は「学校経営」と同義と考えてよさそうだと感じられます。

そ

ことでしょうか。昔習ったことを思い出せば、

経営とか管理ということとされます。とすると、「学校マネジメント」と使った場合は「学校経営」と同義と考えてよさそうだと感じられます。

経営とか管理ということとされます。とすると、「学校マネジメント」と使った場合は「学校経営」と同義と考えてよさそうだと感じられます。

先

う、どうされるだろう。私には、難事に当たってそのように考え、対応の方途を見出したという経験が多くあります。地域性も保護者の皆さんの考えも違うため、学校により直面する課題はそれぞれですが、〇〇先生だったら…、と考えることは、先輩のマネジメントに学ぶことだと思います。学校の一層の機能化を願ってマネジメントという語を用いるときには、マネジメントの先達のいわば総合的実践力に学ぶことを大事にしたいと思っています。

う、どうされるだろう。私には、難事に当たってそのように考え、対応の方途を見出したという経験が多くあります。地域性も保護者の皆さんの考えも違うため、学校により直面する課題はそれぞれですが、〇〇先生だったら…、と考えることは、先輩のマネジメントに学ぶことだと思います。学校の一層の機能化を願ってマネジメントという語を用いるときには、マネジメントの先達のいわば総合的実践力に学ぶことを大事にしたいと思っています。

う、どうされるだろう。私には、難事に当たってそのように考え、対応の方途を見出したという経験が多くあります。地域性も保護者の皆さんの考えも違うため、学校により直面する課題はそれぞれですが、〇〇先生だったら…、と考えることは、先輩のマネジメントに学ぶことだと思います。学校の一層の機能化を願ってマネジメントという語を用いるときには、マネジメントの先達のいわば総合的実践力に学ぶことを大事にしたいと思っています。

う、どうされるだろう。私には、難事に当たってそのように考え、対応の方途を見出したという経験が多くあります。地域性も保護者の皆さんの考えも違うため、学校により直面する課題はそれぞれですが、〇〇先生だったら…、と考えることは、先輩のマネジメントに学ぶことだと思います。学校の一層の機能化を願ってマネジメントという語を用いるときには、マネジメントの先達のいわば総合的実践力に学ぶことを大事にしたいと思っています。

う、どうされるだろう。私には、難事に当たってそのように考え、対応の方途を見出したという経験が多くあります。地域性も保護者の皆さんの考えも違うため、学校により直面する課題はそれぞれですが、〇〇先生だったら…、と考えることは、先輩のマネジメントに学ぶことだと思います。学校の一層の機能化を願ってマネジメントという語を用いるときには、マネジメントの先達のいわば総合的実践力に学ぶことを大事にしたいと思っています。

う、どうされるだろう。私には、難事に当たってそのように考え、対応の方途を見出したという経験が多くあります。地域性も保護者の皆さんの考えも違うため、学校により直面する課題はそれぞれですが、〇〇先生だったら…、と考えることは、先輩のマネジメントに学ぶことだと思います。学校の一層の機能化を願ってマネジメントという語を用いるときには、マネジメントの先達のいわば総合的実践力に学ぶことを大事にしたいと思っています。

う、どうされるだろう。私には、難事に当たってそのように考え、対応の方途を見出したという経験が多くあります。地域性も保護者の皆さんの考えも違うため、学校により直面する課題はそれぞれですが、〇〇先生だったら…、と考えることは、先輩のマネジメントに学ぶことだと思います。学校の一層の機能化を願ってマネジメントという語を用いるときには、マネジメントの先達のいわば総合的実践力に学ぶことを大事にしたいと思っています。

う、どうされるだろう。私には、難事に当たってそのように考え、対応の方途を見出したという経験が多くあります。地域性も保護者の皆さんの考えも違うため、学校により直面する課題はそれぞれですが、〇〇先生だったら…、と考えることは、先輩のマネジメントに学ぶことだと思います。学校の一層の機能化を願ってマネジメントという語を用いるときには、マネジメントの先達のいわば総合的実践力に学ぶことを大事にしたいと思っています。

う、どうされるだろう。私には、難事に当たってそのように考え、対応の方途を見出したという経験が多くあります。地域性も保護者の皆さんの考えも違うため、学校により直面する課題はそれぞれですが、〇〇先生だったら…、と考えることは、先輩のマネジメントに学ぶことだと思います。学校の一層の機能化を願ってマネジメントという語を用いるときには、マネジメントの先達のいわば総合的実践力に学ぶことを大事にしたいと思っています。

う、どうされるだろう。私には、難事に当たってそのように考え、対応の方途を見出したという経験が多くあります。地域性も保護者の皆さんの考えも違うため、学校により直面する課題はそれぞれですが、〇〇先生だったら…、と考えることは、先輩のマネジメントに学ぶことだと思います。学校の一層の機能化を願ってマネジメントという語を用いるときには、マネジメントの先達のいわば総合的実践力に学ぶことを大事にしたいと思っています。

う、どうされるだろう。私には、難事に当たってそのように考え、対応の方途を見出したという経験が多くあります。地域性も保護者の皆さんの考えも違うため、学校により直面する課題はそれぞれですが、〇〇先生だったら…、と考えることは、先輩のマネジメントに学ぶことだと思います。学校の一層の機能化を願ってマネジメントという語を用いるときには、マネジメントの先達のいわば総合的実践力に学ぶことを大事にしたいと思っています。

特集

なぜ、今「地域と共にある学校づくり」か

文化財・生涯学習課

6 月県議会で補正予算が認められ、「信州型コミュニケーションスクール創造事業」が始動しました。この事業は、国が進める「コミュニケーションスクール事業（地域の方が学校運営に参画・評価等を行う）」と「学校支援地域本部事業（地域の方が学校支援等を行う）」の機能を併せ持つ、長野県独自の学校と地域の連携・協力を推進する事業です。

しあわせ信州創造プラン（長野県総合5か年計画）及び第2次長野県教育振興基本計画では、平成29年度までに県内全ての学校で、学校や地域の実情に応じて連携・協力の仕組みができていくことを目指しています。

では、なぜ、今そうした事業を推進するのでしょうか。

子 子どもたちの自己肯定感の低下、学校や先生方の多忙感、団塊世代の生きがいづくり等、それぞれが抱える課題解決の方向の1つに、学校と地域の連携・協力があるということができません。また、地域社会の希薄な人間関係等の現状を、子どもたちを軸に再生を図っていくとする取組も事業推進の大事なねらいになっています。

さ らに、喫緊の教育課題解決のために設けられた「教員の資質向上・教育制度あり方検討会議」の提言では、学校と関係者だけの閉ざされた学校運営から、外部の視点を取り入れた透明性の高い学校運営が求められているという課題ともリンクして、学校と地域の連携・協力が急務であるということができません。

学 校は地域の願いや要請に応えることでその存在価値を高め、地域は学校から発信される情報により活性化されてきました。昔から受け継がれてきたそんな協力

関係ですが、昨今の学校や地域を取り巻く厳しい社会情勢の中で、地域の方が学校に立ち入ることを躊躇させる状態にあることも事実であると思います。

昔 は自然にできていた学校と地域の交流ですが、今は仕組みをつくって、少しだけ後押しすることが必要なのかもしれない。

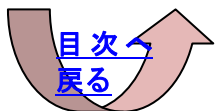
冒 頭に説明した事業は、そんな後押しにつながる施策になると考えます。「生涯学習推進プログラムNOS『地域と共にある学校づくり』長野県教育委員会」（※1）では、こうした事業の推進により、期待される子どもたちの変容を整理しています。学校と地域が連携して取り組むことで、「子どもたちの学習意欲を引き出したり、問題行動や不登校の減少につながったりする。」また、「将来高校生になったとき、学校生活に適応しやすかったり、良好な親子関係が継続できたりする。」というのです。

こ うした取組により、子どもたち、学校（先生方）、そして地域の皆さんが、互恵（winwin）の関係でつながり、笑顔あふれる時間の共有が進むことを期待します。

※1

[http://www.pref.nagano.lg.jp/kyouiku/syougai/pr
ogramguide/guide2.pdf](http://www.pref.nagano.lg.jp/kyouiku/syougai/pr ogramguide/guide2.pdf)

■お問い合わせ
文化財・生涯学習課 生涯学習係
TEL : 026-235-7437
FAX : 026-235-7493
e-mail :
bunsho@pref.nagano.lg.jp



「わくわくずこつデイ」(全校造形の日) くつむぎ合う子どもたち

茅野市立永明小学校

思

思いにつくったカラフルなミニ旗を両手に握り、友だちと一緒に教室前の小川に立

て始めた2年生の子どもたち。

「ねえ、ここにミニミニ旗をうわーって感じに立ててみない？」

「いいねえ。じゃ、せせらぎ川の中にも立ててみようよ」

「それいい。せせらぎ川の中も外もカラフルになるじゃん」

そして、友だちと笑顔で言葉を交わしながら、小川の周りや中に広がるミニ旗のカラフルな色を嬉しそうに眺めていました。



永

明小学校では、造形活動Ⅱコミュニケーション

ツールという発想から、全校一斉で造形活動を楽しむ「わくわくずこつデイ」(全校造

形の日)を年間2回行っています。9:00～11:30

までを「わくわくずこつタイム」(造形活動の時間)、その中間に「見に行こうタイム」(学年を

超えた相互鑑賞の時間)を位置づけて実施しています。たつぷりと確保された時間と材料を目の前

にして、子どもたちは目を輝かせながら、様々な形や色を友だちと一緒につくりだしたり、お互い

の造形に見入ったりしています。図画工作科の目標である「感性を働かせて」「つくりだす喜びを

味わって」いる具体の姿があらわれているのはもちろん、素材や人とつむぎ合うことで、自分らしい形や色をつくりだす力が育っています。

◇素材とつむぎ合いながら

「わくわくずこつデイ」で行う活動は、図工の教科書に載っている、短時間題材を主としています。材料は、学年に応じて、新聞紙や段ボール、色画用紙、紙コップなど、身近なものばかりです。学年で題材をそろえて行うので、材料もたくさん用意します。また、活動場所も題材に応じて、教室や廊下、体育館、遊具園や校庭…と様々です。「わくわくずこつタイム」を通して、素材や場所に働きかけ、その特徴を感じ、それらを繰り返すつむぎ合いから、様々な形や色をつくりだしています。





◇友だち・保護者・地域の人とつむぎ合いながら

造形活動を通して、友だちの造形や言葉、寄り添いなど、体全体で感じ合い、豊かな情操を養っています。さらに、全校で鑑賞し合う「見に行こうタイム」を通して、他学年の造形に触れながらそのよさを感じ取っています。そして、教師もまた、子どもたちの造形的な感覚を感じ取りながらも、子どもたちとともに活動したり参観したりしながら、子どもたちとの造形活動を支えています。こうした子どもと子ども、子どもと教師、保護者や地域の方が、糸で結び合い永明小という1枚の布を織り上げていく姿をつむぎ合いと呼び、本校の柱としています。「身近な材料が、子どもたちの発想でどんどん変わっていくことに驚きました。」



「みんなと一緒に楽しんでやっている自分の子どもの姿がすごく嬉しかったです。」「学校が美術館になっていくような感じがして、素敵ですね。」「わくわくずこうデイ」は、保護者や地域の方にとっても、子どもたちの可能性やよさを再発見する場となっています。

第一回目の内容は以下のとおりです。

1学年

- 「ならべて つんで」
- ・紙コップを並べたり つんだりする活動



2学年

- 「ミニミニはたはた大きくせん」
- ・手づくりのミニ旗を校舎外の気に入った場所に立てる活動



3学年

- 「クミクミミックス」
- ・段ボールに切れ目を入れて気に入った形に組み立てていく活動



4学年

- 「すてきなペーパー」
- ・マーブリングした紙をちぎりそれを画用紙に貼り付けていく活動



5学年

- 「新聞で変身☆」
- ・身の回りのものを新聞紙ですべて包んでしまう活動



6学年

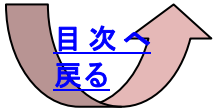
- 「みんながかざろう体育館」
- ・体育館に張り巡らされたビニールテープに画用紙を切った思い思いの形を貼り付けていく活動



*第2回は、10月9日(水)9:00~11:30に予定しています。ぜひ、ご参観ください。

■お問い合わせ

茅野市立永明小学校
TEL : 0266-72-2207
FAX : 0266-72-1506
e-mail : eimei.es@city.chino.lg.jp



現場レポート

小諸高等学校を訪ねて ～初任者研修 研究授業～

■研究授業

朝9時、緊張感が漂う中、初任者研修である国語科研究授業が始まりました。

授業者は、採用1年目。

筆者が授業を本格的に見るのは、自分が高校生時代に授業を受けて以来、実に15年ぶり。

教材は、芥川龍之介の「羅生門」。

筆者が高校生のときも学んだ教材だなあと、何とも言えない懐かしさを覚えました。

先生が、前回の授業を振り返り、「もしあなたが下人の立場だったら、『手段を選ばず(飢え死に)』か『選ばない(盗人)』か。」と生徒に問いかけます。生徒はそれぞれ自分の考えを発表します。様々な意見が出てきます。

先生は、難解な言葉の説明や自分のエピソードも織り交ぜつつ、文章を丁寧に読み解きながら、生徒の発表内容を咀嚼し、生徒に言葉を返します。

何気ないやり取りですが、授業は先生と生徒のキヤッチボールであると改めて思った瞬間でした。



写真には写っていないが、後方では校長先生など約10人の先生方が授業を見学。生徒も普段よりは緊張気味？

■授業研究会

授業終了後、参観された先生方が授業者に対して、良かった点や改善点などをフィードバックする授業研究会が行われました。

まず、授業者が反省や感想を述べます。「生徒に對し小さな問いをいくつも出して、答えの根拠を探させるようにした。」「ある1つの答えを導き出すのに、進め方が回りくどくなってしまった。」「余談のタイミングと、本題に戻すタイミングが不自然だった。」「まとめの時間が十分に取れなかった。」など、素人である筆者から見れば「良かったなあ。」と思えた授業であっても、先生からすると多くの反省点があるようで、さすがは「教師」と感じました。

校長先生、教頭先生、事務長、他科目の先生、国語の先輩の先生などが研修者に助言。とても真剣な雰囲気。



参観された先生方からは、「生徒の発問をじっくり待つ『間』が良かった。」「生徒に読み聞かせる先生の朗読が非常に素晴らしかった。」「声が小さく他の生徒が聞きとれないような発表をしていた生徒もいたので、もう一度はつきり言わせるなどの対応をとってもよかったですのではないか。」などの意見が出されました。

このように、身近な先輩教師からの助言を糧に、授業改善など教師としての力量を高めていく、授業研究会は非常に有効な「研修」であると感じました。

■最後に

初任者である先生に、どんなときに教師としてのやりがいを感じるか尋ねたところ、「自分が生徒と関わることによって、何らかの形で生徒の成長が垣間見られたとき」という答えが返ってきました。

教師という仕事は、自分が関わることで生徒を成長させる、非常に夢のある仕事なのだと感じました。

時には難しい問題を抱え大変なこともあるかと思いますが、今後の大いなるご活躍を期待しています。

最後に、急なお願いにもかかわらず私の訪問をご快諾いただき、貴重な時間を割いて対応してくださった校長先生、教頭先生、事務長や諸先生方、本当にありがとうございました。

音楽科について

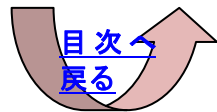
小諸高等学校には、県内で唯一の音楽科があります。

今回の訪問で、音楽科の施設や設備を見学させていただきましたが、まさに「素晴らしい！」の一言でした。

専門家（外部講師）による個人指導や、年に7回開催される校内演奏会や校外での定期演奏会など、音楽を志す生徒にとっては、カrippばい音楽を学べる環境が整っています。

卒業生は、プロの演奏家や中学・高校の音楽教諭など、様々な分野で活躍しています。

体験入学や学校開放なども実施していますので、興味のある生徒や保護者の皆さんは、ぜひ一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。



座席数158席の音楽ホール。年7回の校内演奏会のほか、公開レッスン、実技試験、合唱・合奏の授業や練習等で使用。



レッスン室。左が先生用、右が生徒用。7室ある。この他にも個人練習室26室など、とても充実した環境。

◆小諸高等学校ホームページ

<http://www.nagano-c.ed.jp/komorohs/>

■お問い合わせ
教育総務課
TEL : 026-235-7423
FAX : 026-235-7487
E-mail : kyoiku-kikaku@pref.nagano.lg.jp

イベント情報・お知らせ

イベント・募集

8月から9月までに開催する研修講座のご案内をいたします。詳細については、当センターのHPをご覧ください。
皆様の参加をお待ちしております。

生涯学習推進センターのホームページは <http://www.nagano-c.ed.jp/shogai/> です。

タイトル	日時	実習・講座	講師
◆生涯学習推進講座 「地域で育てる子どもの笑顔」	8月6日(火) 9:40~16:00	講義・演習:「学校支援ボランティア、コーディネーターの役割と課題」	講師 佐藤 晴雄 日本大学文理学部教授
◆マナビイ共育講座(センター施設開放) 「心を豊かにするレクリエーションワーク」	8月24日(土) 10:30~12:00	講義・演習:「人をつなぐ、人とつながるレクリエーションワーク ~遊びに含まれる意味と価値~」	講師 犬飼 己紀子 松本大学人間健康学部教授
◆セミナー 「生きる力」	9月21日(土) 9:40~12:00	講義:「いただいた『いのち』、今ここをいかに生きるか」	講師 青山 俊董 無量寺東堂
◆家庭・幼児教育講座 「心育と子どもの未来」	9月27日(金) 9:40~16:00	講義:「子どもにつけるべき力と大人の役割」	講師 門脇 厚司 筑波大学名誉教授 茨城県美浦村教育長
※ 受講は無料です ※ いずれの講座も、当センターにおいて開催します。			

■お問い合わせ

長野県生涯学習推進センター
〒399-0711
長野県塩尻市片丘南唐沢 6342-4
Tel : 0263-53-8822
Fax : 0263-53-8825
e-mail : shogaigakushu@pref.nagano.lg.jp



あしがき

メールマガジン8月号をお送りします。

猛暑ですね。
皆様夏バテなどされていないでしょうか??

あまりの暑さに、今まで自然風&うちわで頑張っていた私の部屋にも、ついに扇風機がやってきました。(クーラーはちょっと予算オーバーでした・・・)

扇風機を付けて、保冷財を包んだタオルを首に巻いて、昼間を乗り切りたいと思います。(か)

◆少子・人口減少社会に対応した新たな学校づくり検討会議を開催しました
◆新しい信州ブランド戦略の「キャッチフレーズ&ロゴマーク」と「スローガン」を「活用ください」。

